

令和５年度 第２３回（令和５年度第２回）外部アドバイザー委員会報告書

1 開催日時 令和６年３月１２日（金）１４時３０分～１６時０５分

2 開催場所 倉敷市立短期大学 大会議室

3 出席者

（１）委 員 出席者 ７名

尾崎委員、山本委員、津田委員、池葉須委員、海本委員、江島委員、大江委員

（２）教職員 出席 ９名

安達学長、小久保保育学科長、岩崎服飾美術学科長、大原図書館長、

家守事務局長、岡事務局長代理、眞次学生部長、松内学生部主幹、

山口会計年度任用職員

（３）オブザーバー 出席 １名

石田企画経営室長

4 次第

（１）安達学長挨拶

（２）報告・審議事項

（３）意見交換

（４）その他

○ 安達学長挨拶

令和５年度の重点課題と取組結果および自己評価についての説明があった。急に今年受験者数を減らしている服飾美術学科の定員を充足させるということを目標に、学生の目線に立ち変えていかなければならないと熱意をもって取り組みたい。いろいろな方との出会いを通し、私たちはお力をいただいたり発見をしていただいたりしており大事にしたいと思っている。是非、外部アドバイザー委員の皆様方の今のお立場、お仕事、ご活動、ご活躍の中から教えていただけることがありましたら児島が今、どんな状況でまた今後の姿等いろいろ教えていただければそれを参考に頑張っていきたい。

○ 学長、学生部長、両学科長、事務局長、図書館長より本年度の取り組み状況の結果等について資料に基づき説明あり。

5 外部アドバイザー意見

意見①

進路の状況は入学を検討している人たちにとっては、短大に入学して学んだ後どういった進路に就けるのかというところは興味があるのでは。就職状況もほぼ 100 パーセントに近い状況は大変魅力的に感じた。それぞれの学科で学んだ専門的な知識や技能を生かした就職先に就くことができるといったところも非常に魅力的だ。

意見②

激減したと言われた服飾美術学科の志願者と入学予定者の人数が書かれていない。

意見③

服飾美術学科の定員低下がとても残念。服飾美術学科という学科の名前と、実際の授業とでは中身が違う印象がある。私のイメージとしてはファッション、ジーンズ、アートを求めてきているのではないかと。移転を機会に、学生にうける、つまり興味のある授業を実施するのが良いのでは。来年度からは心理カウンセラーがいるとのことで良かったと思う。

意見④

減っていく短大のニュースはご存じだと思うが、短期大学の時代というのを先生方も設置者もどう考えておられるのか。10 年、15 年も前からの課題であり、こうなっていくのは分かっていることだった。服飾美術学科という名前は創立の時からで 40 年近くなるわけで、それが未だに続いているということだが本当にこれでいいのか。この短大の存続がすごく心配だ。これからは保育だけ、服飾美術だけではなく 2 つが協力して進んでいくということを考えていくことが必要なのではないか。事務局からの報告にパブリックコメントで短大の未来が見えないとあったが、本当にそうだと私も思う。短大の新しいビジョンを、移転をうまく利用してやることのできないのかと思う。

意見⑤

なかなか難しいと思うが、魅力的なカリキュラムに変更できないのか。できないなら、生き残っていくには難しいと思う。服飾美術学科は、昨年度も定員割れしている。このまま移転して、一時的には学生は増えるかもしれないが、すぐに減るだろう。地域に対して、短大がどのように応えているのか。危機感は、みんな持っていると思うが、両学科で共有して学生を集めて欲しい。

意見⑥

昨年の倉敷未来プロジェクトを見学に行ったがとても素晴らしく感動した。しかし、観客数が少なかった。みんなに周知されていないことがとても残念だ。PR をもっと工夫したら地域の方々に短大の学生がやっていることが分かり良かったの

では。児島の繊維祭のパレードが復活するのであれば短大の学生も何か着て出たり、雛巡りの時に学生が着物を着て園児等とジーンズストリートを歩いたりすれば地域の人たちの目に見えて、短大活動が分かってもらえるのではないかな。

意見⑦

市立短大だからこそできることとか、大学の独自性とか強みを生かしたPRが出来ればと思う。在学生や卒業生に母校で短大のPRをしてもらえばどうか。学生が得意なSNSを十分に活用し発信すれば学生確保に繋がるのではないかな。

意見⑧

服飾美術学科の志願者が少なくなっているということだが、繊維に携わる職も激減している。上質な学校への転換が必要ではないかな。昔の様な短大を出て工場で働くという認識ではなく、これからいかにスタートアップの企業、個人からしていくいうところがすごく大事だと思う。繊維の産地と呼ばれる児島も昔のようなタイム生産、大量商品ではなく、働き方改革により自分の好きな時間に好きなように働くというライフスタイルになってくるのではないかなと思う。数が減ると恐れず中身をしっかりと大きくしていきたい。